



住民の声から「地域の福祉力」を高めるまちづくり活動へ！

たつの市社協は、平成17年に1市3町が合併し、合併後の平成20年に第1次地域福祉推進計画を策定した。この計画では、住民主体の福祉のまちづくりを目指し、住民の暮らしに寄り添った小地域福祉活動を重点的に進めている。

全市域での活動推進に向けてハンドブックを作成

第1次計画で重点課題に掲げた小地域福祉活動の取り組みを具体化させるため、最初に取り組んだのが小地域福祉活動ハンドブックの作成だ。このハンドブックは、小地域福祉活動の必要性や手順など、市社協が目指す小地域福祉活動のあり方を住民に提案していくツールとして、住民リーダー向けに作成したものだ。

市内では、すでにふれあいサロンや見守りが行われている地域もあり、活動の輪を広げていくことに対して「進めていくのは難しい」と住民からの不安の声も上



みんなで楽しく過ごすクリスマス(ふれあいサロンの様子から)

がったが、市社協職員がさまざまな機会を通して住民に説明を行っている。より多くの住民が参加できる場づくりを住民とともに考え、福祉のまちづくりを推進していくため、今後もこのハンドブックを活用していきたいと市社協では考えている。

次へのステップへ向けて活動チェック！

現在、市社協では第2次計画の策定に取り組んでいる。本計画でも、小地域福祉推進組織づくりを

中心に、研修会や小地域福祉ネットワーク会議などの小地域福祉活動に重点を置き、住民とともに地域の福祉力を高めていくことを目指している。

さらに、現在の小地域福祉活動を今後どのように広げていくかを、住民とともに考えるツールとして「活動チェックシート」を今後作成し、活用していく予定だ。活動の振り返りと評価を行い、次のステップに向けた取り組みについて考えるというものだ。

このほかにも、計画策定の過程で開催した住民福祉座談会では、「ボランティア活動の概要の分かるものが欲しい」「活動対象者が高齢者だけでなく障害者や若者を対象にした取り組みがあれば」などの提案も上げられた。市社協では引き続き、住民の思いを計画に盛り込み、形にしていく。

このように、市社協は住民活動への関わりを通して、普段から住民課題の把握に努め、合併前の旧市町で取り組まれていた活動を発展させ、全市域で推進していくことを目指している。

地域の実情や特性を踏まえながら、住民に寄り添い、福祉のまちづくりに向けた連携の場づくり、仕組みづくりをサポートしていく市社協の今後の活動展開が、大いに期待される。

たつの市社協では、第2次地域福祉推進計画の策定に取り組んでいます。その策定作業の過程で各種ニーズ調査を分析していくと、さまざまな課題が見えてきました。こうした課題は、いわば氷山の一角であり、中には日々の暮らしの中での生活課題を誰にも相談できずに不便な暮らしをされている方もおられるかと思えます。住民の立場で当事者の生活課題に向き合っていく社協の使命を認識し、小地域福祉活動の再整備の中で、声にならない当事者の生活課題を発見し、相談・支援につなげる仕組みづくりに住民の皆様と共に取り組んでまいります。



たつの市社会福祉協議会
会長 井川 進